和泉市　生活環境課
『ベランダ　ｄｅ　キエーロ』平成２８年７月から９月のモニタリング結果

生ごみの減量を目的に、平成 26 年 12 月より『ベランダ　ｄｅ　キエーロ』を使ってモニタリングをおこなっています。
黒土の中にいる微生物が生ごみを分解していますが、どういった物が分解できるのか、臭いや虫など発生しないのか、また、どれだけの減量効果があるのか経過を観察しています。

１．　期間：平成 28 年 7 月から 9 月

２．場所：市役所内（2 号館 1 階にある生活環境課近くの出入口脇）

３．投入物：市役所内喫茶食堂残渣　約 400ｇ
※主に野菜類が中心で調理くず、ヘタ、皮など
（きゃべつ、たまねぎ、とまと、じゃがいも、もやし、しょうが、スイカの皮、昆布、厚揚げ、麺類、ごはんくず、卵の殻、さんまゆでたまご、ミカンの皮、にんじん、枝豆、コロッケ）

４．投入回数及び処理量：
毎週火曜日・金曜日の週２回投入
合　計　　20 回投入
処理量　　10,930ｇ（20 回×546.5ｇ）

５．土の温度：
各月平均温度〔 ７月２８．４℃、８月２８．５℃、９月２５．５℃ 〕

６．分解日数：分解するまで　３日から５日程度

７．モニタリング状況：

経過は順調で、臭いの発生も無く、生ごみの分解も良好でした。外気温、の温度、物の大きさによって分解速度が変わるため、なるべく細かくしてから投入するほうが良いようです。

前回から目につくようになりましたワラジムシについては、ごはんくずや野菜くずを前回に比べて少し深く掘るようにすると、それほど目につかない程度に収まりました。深く埋め込んだことによりえさがなくなり、ワラジムシがわきにくい環境を整えられたのではと考えます。

ですが、当初想定されていた量より多くの生ごみをキエーロに投入していた日が数日あり、分解に時間を要する日が何日かありました。それが直接の原因であるかは不明ですが、ワラジムシとは異なる小さな虫が少し見受けられました。

次回のモニタリング以降は、モニタリングに使っている野菜、生ごみの量を確認しつつ埋め込み、経過を見ていこうと考えており、この経過を観察しながら、いろいろな物を使ってモニタリングをおこなっていきたいと考えます。

８．投入写真：

平成 28 年 8 月 2 日

①

②

①　投入時の写真です。（上記左側）

②　上記に土をかぶせ、水を注いで再度被せたものです。（上記右側）